

## 自然観察会の報告

兵庫県生物学会第43回神戸大会の2日目は、摩耶山上からトゥウェンティクロス、市ヶ原・布引のコースで自然観察会が行われた。講師の谷口博、藤本義昭、横山了爾各先生の講話を聞きながら約9kmのコースを歩いた。参加者は80人、生物学会の会員以外に幼児の手を引いた一般参加の方もまじってなごやかな会であった。山頂付近では、ヤマツツジの朱色の花が印象的であった。アジサイの仲間の花はまだ開いていない。ミヤコザサが一面に敷きつめた斜面の所々で、ミサキカグマ、イヌガンソク、ミゾシダ、オクマワラビなどシダ類も多い。オタカラコウが狭い範囲で群生している。八洲嶺堰堤を左に見て進むと、ようやく山道は平坦になってくる。コバノガマズミ、リョウブ、ウラジロノキ、タカノツメ、コックパネウツギ、ヤブウツギ、ミズキ、クマイチゴ、ノイバラ、ウツギと目につく。山上からこのあたりまでがこのコースのハイライトである。小鳥の声、カジカの声など特に良い。水たまりにはオタマジャクシもみつかる。市ヶ原付近で一般登山者が急に多くなってきたので観察会はここで一応終了とした。熱心に観察でき盛会であった。

(春名利雄 記)

## 第二次台湾研修旅行の報告

1989年7月24日から8月3日の間、標記の研修旅行を実施した。参加者は次の通りである。

東良雄、松原竜男、松原美代子、藤本義昭、平畑政幸、当津隆、北村健、藤井清、阿蘇達郎、笹井隆邦、佐々木誠太郎、谷口博、西沢信一、西沢敏子、長門和朗、福原整、猪股涼一、宮崎三千子、富川哲夫、岩谷成彦、児島哲郎、菅村定昌、萩谷盛雄、杉田隆三の各氏の総勢24名(敬称略、順不同)。

7/24 大阪-桃園中正国際空港-台北-澎湖島馬公(勝国大飯店泊)

大阪空港8:30集合。日本旅行社の下川氏の説明を聞き、搭乗手続き。CX565便で台湾へ。桃園中正国際機場から台北の国内線空港へ。ここから馬公機場へ。荷物を受け取った後、観光バスで澎湖島巡り。

7/25 馬公-高雄(華園大飯店泊)

出発まで自由行動。しかし、狭い島のこと行先が限られほとんど団体行動。午前中海岸方面の採集。午後便で高雄へ。高雄ではすぐチェックイン、そして夕食。

7/26 高雄-三地門-四重溪温泉(南台湾大飯店泊)

高雄出発時には雨がぱらつく、三地門では激しい雨が

降ったりやんだり。排湾族の陳俄安、阿修夫妻の家を訪ねる。陳俄安さんの案内で採集にでかける。午後、四重溪温泉へ。

7/27 四重溪-台東-知本温泉(知本大飯店泊)

四重溪から知本へ。途中雨が激しく降る。予定はこのまま台東へ行き、蘭嶼へ渡るのであるが天候不順(台風12号の影響)。台東まで行くが飛行機は飛ばず、知本温泉に行先を変更。

7/28 知本-台東-蘭嶼(蘭嶼別館泊)

朝早くホテル出発。2便にわけて蘭嶼へ。蘭嶼別館のマイクロバスで島内一周。午後は自由行動。

7/29 蘭嶼-台東-知本(知本大飯店泊)

今日も2便にわけて台東へ。天候悪くフライト遅れる。午後知本温泉に。蘭嶼から無事帰ることができてほっとする。

7/30 知本-楓港-高雄-台南(台南大飯店泊)

知本から太麻里を経て楓港へ。途中最南端部の横貫公路の峠で車を止め採集。楓港で東、萩谷両氏は墾丁公園方面へ。残りは高雄を経て台南へ。鄭成功の遺跡、赤坎楼、安平古堡を見学後ホテルへ。

7/31 台南-嘉義-台中(台中大飯店泊)

台南から高速公路を経て嘉義へ。北回帰線標識塔を見学の後、博愛路の台湾林業試験場中埔栽培場で竹の見学。後、呉鳳廟、そして台中へ。

8/1 台中-埔里-霧社-幼獅(清境農場)-台中(台中大飯店泊)

蝶採集-南投県仁愛郷本部溪、南山溪。プランクトン採集-萬大水庫。植物採集-幼獅-霧社。台湾の地理的中心地と木犀昆虫館見学。

8/2 台中(自由行動) 台中大飯店泊

蝶採集-南投県仁愛郷本部溪、南山溪。竹工場見学他-南投県竹山鎮。幼稚園見学他-台中市内。海岸動物の調査-彰化県鹿港他

8/3 台中-桃園中正国際空港-大阪空港 解散

植物検疫、手荷物検査の後、順次解散。

今回の取扱旅行社は、日本旅行神戸元町支店で、台湾側は台友旅行社有限公司であった。ともに大変便宜を図って頂いたことに厚くお礼申し上げる。また、参加者全員事故もなく、それぞれ初期の目的を果たして、無事帰国できたことを喜んでいる。(藤本義昭 記)

なお、台湾研修旅行における調査研究などは、次号(10巻2号)で特集を組む予定です。御期待下さい。

(編集部)